

# OSAKA YMCA RECRUITING BOOK



願いは  
いま、  
決意に



私たちほどどこまでも  
「理想」を追いかける。  
たとえ、ひとりでは  
叶えられなくても  
仲間の手を取り  
連帯しながら  
一つひとつ  
あきらめることなく。

## メッセージ

# “共創”で描く、 未来の 大阪YMCA。

大阪YMCA 総主事 小川 健一郎



### 《私の経歴》

大学では経営学を学び、陸上競技のサークル活動、バングラデシュに寺子屋をつくる海外ボランティアなどをしました。外国语に対しては苦手意識が強かったですが、これからは海外との関係が大切だと考えて、大学2年生の時にアメリカ・ロサンゼルスに1ヶ月語学研修に行きました。

賞利を求める国際団体であるYMCAに興味を持ち、東京YMCAに入職しました。配属先は国際ホテル専門学校で、高校卒業の日本人、留学生に日本のホテルで就職できるように学生指導をしました。勤務開始3年目で、ヨーロッパ研修の引率をしたり、4年目でアメリカ研修の引率をしたりとチャンスを頂き、やる気がパワーアップしたことを覚えていました。

休日は、料理や読書、冬にはスキーを楽しんでいます。業務で国内外の出張が多いため、休日は近場で過ごすことが多いです。

### すべては公益のために

私たちYMCAは自主自立の「公益法人」として活動を展開しています。公益法人は、その事業で得た利益を公益事業のために使っている、民間の社会を良くすることに取り組んでいる組織です。利益が株主や役員報酬などに配分される株式会社とは、全く異なる仕組みとなるわけです。ボランティア活動や寄付金を得て行う事業、キャンプやスポーツなど参加費を得て行う事業なども、その収益は地域活動や運営している学校、保育園、幼稚園などの運営資金につながることが公益法人の特長。つまり、すべてが“公益のために”に使われているのです。

### 社会の課題解決にチャレンジ

YMCAが展開する事業の根幹は、“社会の課題解決”です。社会で何が必要とされ、私たちがどう解決していくべきなのか？ 大阪YMCAでも、この大阪の地でその課題解決にチャレンジしています。その一つが、「大阪を国際都市へ！」という課題。私たちは約20年前から大阪市と一緒にになってその課題に取り組み、大阪市内唯一のインターナショナルスクールを設立、運営してきました。そして2019年4月、全国初の公設民営の中高一貫教育校として『水都国際中学校・高等学校』を開校。大阪から世界に羽ばたき、再び大阪に戻って活躍してくれる人財を育成するため、グローバルな視点で生徒の教育のあるべき姿を考え、仕組みを整えています。また、大阪市のもう一つの課題である「教員の育成」を解決する場とし、水都国際の先進的な教育方法を他の学校の先生方にも見て頂き、一緒に学んで頂く取り組みも行っています。こういったグローバルな視点というのは、世界120にも及ぶ国と地域でネットワークを持ち、かかわる人たちすべてに「広い視野を持ってほしい」と活動を続けているYMCAだからこそ伝えることができるのです。

### 「共創」によって新たな“人づくり”を

私たちがこのような社会課題に取り組むうえで、大きな特長が“人づくり”を通して解決に導いているということ。そして現在、それら“人づくり”を行う各事業が重なり、相乗効果が得られる『共創』を中期計画のテーマに掲げています。

前述した水都国際も、インターナショナルスクールの教育実績や、キャンプの生活を共にして子どもと大人が同じ目標で一緒に何かをつくり上げるという手法など、それらの共創によって実現したものなのです。他にも、留学生事業や学校運営を共創し、通信制の高校に日本語が話せない人たちも受け入れようとその準備を進めています。またスポーツ指導の実績から、池田市の小学校ではソフトバンクと連携し、ICTを活用した遠隔でのスポーツ指導も行っています。さらにIT分野としては、日本YMCA同盟がアマゾンジャパンと連携し、子ども向けの『プログラミング体験講座』も開催。発達障がいを持つ子どもたちも加わり、夢中になって取り組んでいる姿も見ることができました。今後はキャンプと合わせることで、プログラミングキャンプとして実施するなどの新たな構想もあります。このように大阪YMCAの事業間だけでなく、企業とも連携して共創し、さらに国内だけでなく海外にも目を向けながら、新たな価値をつくりていきます。そしてこの共創のためのチャレンジが、各事業や職員一人ひとりの成長、ひいては「組織全体の成長」につながり、未来の大坂YMCAを築くことになるのです。

### 就活生へのメッセージ

「社会の課題を発見し、それに応えるサービスを様々な人たちと“共創”することで実現する」そういった未来を目指す大阪YMCAにとって、求める人物像は『聞く力』を持った人財。相手が何に困っていて、何が課題なのかということをきちんと聞き取り、考え、解決していく。そのサイクルを回していく方を求めています。また、大阪YMCAには多くの外国人スタッフも働いています。文化や考え方の違いを感じることも多々あるでしょう。それを理解し、受け入れられる人が大阪YMCAで力を発揮できる人財だと言えます。

そして、このメッセージをご覧の学生の皆さんには、例えば海外に赴くなど様々な人や文化、価値観と出会い、つながり、ときには失敗し、自分の視野を大きく広げてほしいと思っています。なぜなら、その経験が私たち大阪YMCAの目指す共創につながり、皆さん一人ひとりが未来を築く仲間になると考えているからです。

現在大阪YMCAでは、10年先の未来の社会を見据えて「VISION2030」を若手から中堅職員、またYMCAの役員等と共に策定を進めています。国や性別、年齢、家族の有無など「多様性」を受け入れ、働きやすく働きがいのある環境づくりを進める方針を踏まえ、外国人もメンバーに入り、またジェンダーバランスも考慮したメンバーでこれを進めています。また、2020年4月より総主事室直轄で若手スタッフと共に働き方改革を推進する取り組みを加速させます。皆さんのがこの大阪YMCAで、「自分の力を思いっきり発揮しよう」と思える環境づくりとなっていますので、ぜひ期待して頂きたいと思います。私たちが次に“共創”ていきたいと考えるのは、他でもない皆さん自身です。

# 大阪YMCAだからできる幅広い経験

学校法人大阪YMCA  
大阪YMCA学院(日本語学校) 学科長  
課長

立山 英展

## ここなら自分を変えられる! キャリアの基礎はチームビルドから

「なんて世界は広いんだ!」この衝撃が、初めてYMCAに出会った時の感想です。それは、学生時代に「英語に触れながらボランティア活動にも挑戦したい」とYMCAのボランティア活動に参加したときのこと。活動場所の日本語学校には、アジアを中心とした多様な国籍の留学生たちが在籍していました。それまで外国と言えば欧米、外国语と言えば英語と考えていた自分の固定概念が一気に吹き飛び、世界の広さを知った瞬間です。そして、漠然ながら「自分を変えたい」と考えていた私にとって、ここで働くことは絶好のチャンスなのではと感じたのです。

入職後、最初に配属されたのはウェルネス事業部。ここで子どもたちにスポーツや野外活動の指導を行っていました。しかし、私にはそれらの専門的な知識も技術もありません。私の役割は、いわばグループワークのリーダー。リーダーとしてチームをどう作っていくのか、どう個人の成長を促していくのかという部分です。この役割を理解できるまでは、「なぜ自分がこんな指導を?」というジレンマにとらわれ、上司から厳しい意見も頂いていました。落ち込んだ時もありましたが、この3年間で管理職として成長するチームビルドの基礎を学び、後のキャリアでも役立つことができました。

## 国内外の幅広い事業で成長 YMCA=“人間変革機関”

私は他の職員と比べると少し特異なキャリアを積んでおり、前述したウェルネス事業部の後も3~4年のスパンで異動を繰り返しています。一例を挙げると、シンガポールのYMCAへの出向や統括本部(財務・総務・国際)、そして現在は大阪YMCA学院(日本語学校)の学科長を務め、アジア諸国への広報活動も担当しています。一つの分野に集中して専門性を高めるキャリアもありますが、私の場合は幅広い事業に携わり、多様な知識と経験を得ることができます。

事業部を異動するということは、再度一から学び、新たなチームを作っていくということ。もちろん大変なこともあります。前述のウェルネス事業部でチームビルドを学んでいたことが大きく役立ちました。また、多くの経験で学んだことが、“自分の弱さを認める”ということ。管理職として責任が伴えば強くありたいと思うのですが、どうやって力を発揮すればいいかを考えたとき、私は弱みを見せられることがとても大きいことだと感じています。自分でできることなんてほんのわずか。周囲の人たちに、「私はこういうことができないから、あなたの力を貸してほしい」と素直に言えるかどうか。そうやって、力を貸してくれる人をどれだけ周りに作ることができるかが管理職としての手腕であり、法人内外の人脈にもつながると考えています。

こういった学びは、大阪YMCAが幅広い事業を展開し、まるで転職したかのような全く違う仕事を経験することができるから。私はこのような大阪YMCAの特長を“人間変革機関”と呼んでいます。私自身も「変わりたい」と思って入

職し、実際に多様な経験から自分の知らない弱さを知り、成長することができました。変わらうと思える人は間違いなく変わることができる場所なのです。そして、やろうと思えば何でもできる場所。それだけいろいろな事業部がありますので、あとは実現しようと強い想いと、サポートしてくれる人たちをどれだけたくさん作っていくか。私もこれまで多くの事業で得た経験を活かし、現在はブランディング推進タスクや財務戦略タスクのメンバーとして勉強させて頂いています。また、在籍している日本語学校の方でも、築き上げてきた人脈や海外での実績をもとに、国内外でYMCAの日本語学校を広くアピールしていきたいと考えています。

次に変わるのは、これを読んでいる皆さんです。ぜひ、この“人間変革機関”で新しい自分を見つけてください。



# 人間変革機関。





学校法人大阪YMCA  
大阪YMCA国際専門学校 高等課程  
表現・コミュニケーション学科 学科長  
主任

西村 麻衣

### 世界の問題もまずは足下から 隣りで悩んでいる人たちにかかわること

世界から戦争を無くしたいと、大学ではアラビア語とアラブ社会について学んでいました。大阪YMCAに入職しても、最初は「イスラエルのYMCAとつながりたい!」と上司にアピールしていたくらいです。しかしあるとき、YMCAでよく使われるある言葉に出会い、考え方を変えました。その言葉は『Think globally, act locally(地球規模で考え、まずは足下から行動せよ)』。社会のため、世界のために何かしたいと思ったら、まずは自分の足下から行動しないといけない。だからまずは、与えられた場所で頑張ってみようと思うようになったのです。

そしてさらにその考えを強く持つようになったのは、大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科(以下、表コミ)での経験。表コミは、社会に馴染みにくい体験をした子どもたちが、学び直しや演劇などを通じて大きく変化していく学校です。以前の私は、戦争や貧困問題など、外の世界ばかりを見ていましたが、「こんなに隣りに、人にわかり難い部分で悩んでいる人たちがいたんだ」と衝撃を受けました。彼らの学生時代に私達がどれだけ丁寧にかかわっていくかによって、1人ひとりの人生が変わるという責任感と大きなやりがいを感じるようになりました。1人の人生を豊かにすること、それがひいては、平和な世界を作ることに繋がっていると思っています。

### 出会いと経験から得たもの 想いを「行動」に移すこと

現在入職して10年以上が経とうとしています。決して楽しいだけの仕事ではありませんが、その間に2回の産休・育休を経て、なおも仕事を続けたいと思えたのは、大阪YMCAで出会った仲間の存在があったからです。それは、私に「人を大切にするマネジメント」を教えてくれた上司や、表コミを立ち上げた偉大な上司、信じられない仕事量をこなすスーパーワーカーまで、生徒ととことん向き合う姿を見てくれた上司、いつも私をサポートして下さる、心から仲間だと思える周囲の方々。そして何より出会った全ての生徒たち。1つひとつの出会いから、多くのことを教えられ、育てて頂きました。

ですから、最初は「与えられた場所」と考えていた現場も、今は「自分が取り組みたい場所」。隣にいる生徒たちの困っていることや、保護者の方々の想いも、全てが社会の課題だと感じています。そして、これらの出会いや様々な経験から学んだのは、考えるだけでなく実際に行動すること。私は外部のNPO法人にもかかわり、大阪・釜ヶ崎のボランティアにも参加して来ました。それら外部とのかかわりから、例えば表コミの生徒をそのボランティアに繋げたり、フリージャーナリストを招き、戦地の現状を生徒たちに知ってもらえる機会をつくったりと、生徒たちの成長につながる場を提供することもできます。これも、想いを行動に移すことができたからこそだと感じています。

### これからのチャレンジ 生徒たちの未来と後輩たちの未来を

そして、この成長の場である大阪YMCAで今後チャレンジしてみたいことは、表コミを卒業する生徒たちの就労支援を行う「就労移行支援事業」の立ち上げです。近隣企業への障がい者理解を深めたり、連携できるパイプを増やしたりする

# 行動主義。

尊敬できる人との出会い  
信頼できる仲間との交流

ことで、近隣企業の障がい者雇用率の下支えにもなり、地域とのWin-Winの関係を築く“共創”につながります。

また、女性のキャリアアップに関して、私自身が良いモデルになれたらと考えています。実際、私は復職後も役職を落とされず、正当な評価を受け、仕事があることで子育ても家族との時間も大切にできています。自分に続く若い職員たちにとってもそういう環境が続くよう、管理職としてしっかりサポートしていきたいです。それらがゆくゆくは、社会課題の解決にもつながる「足下」なのですから。



# 世界を体感し成長できる

公益財団法人大阪YMCA  
ウェルネス事業部 南YMCA

山口 ひかる

## 20代から新たなプロジェクトを主導

### 自ら発信した想いが実現！

学生時代にYMCAのボランティアリーダーをしていたことで、「スポーツを通して様々な人たちの成長にかかわりたい」と考えたのが入職した理由です。現在は、水泳のプログラムを担当しているのですが、通常の四泳法を教えていくプログラムに加えて、『アクアティックプログラム』というYMCAならではのプログラムも指導しています。これは、「swim for safety.1つでも多くの生命を水の事故から守りたい!」という目的のもとに、水泳の技術を身に付けた上で、水の楽しさや、どう安全に楽しむかを伝え、着衣水泳や溺れてしまった時の対処法などを指導しています。

このアクアティックプログラムで、2019年からスタートしたのが、『AQUA WATCH ASIA』という取り組みです。大阪YMCAの他、多様な国のYMCAがチームとなって、カンボジアを中心としたアジアの水難事故を減らす活動を行なっています。

私はその活動の中で、啓発ポスター やグッズの制作、専用サイトの立ち上げなど、プランディングを行って広くその活動をアピールしているのですが、これが実現したきっかけは、「もっとわかりやすく発信できるポスターなどがあればいいのでは?」という私の一言。それを上司が吸い上げてくれ、プランディングを手掛けている方を紹介してもらい、私の想いと一緒に具現化して頂きました。実際にこの期間は半年余り。自分の一言がこうやって周りの人を巻き込んで、あっという間に実現してきたことに自分自身も驚いています。

## 海外での体験で一步を踏み出せた！

### 世界にこの活動を伝えたい!!

しかし実を言うと、以前は自分の想いを言葉にすることがとても苦手でした。その考えが変わったのが、入職2年目で参加した台北での水上安全の研修会および会議。最初は英語も話せなくて、周囲とどうコミュニケーションを取ればよいか悩んでいたのですが、他の国の人たちがどんどん積極的に話しているを見て、「話すことには伝わらない!なにも変わらない!」と気持ちが切り替わったのです。今では、そこで自分も一步成長したと実感しています。

またこの一步によって、普段の水泳指導でも大きな進歩を遂げることができました。学生インストラクターをマネジメントする際、以前はどうしても遠慮して言えないことがあったのですが、「それでは彼ら自身も成長しないし、教えている子どもたちのためにもならない」と、言いにくいことも伝えられるようになったのです。

こういった成長を得られたのも、YMCAという世界に広がるネットワークがあつたからだと感じています。また、このプロジェクトが現実になったのは、私のような若い世代の言葉であっても、それを吸い上げて実現までサポートして下さった大阪YMCAというチームと、外部を含めた連携で新たな価値を生み出すという“共創”的な想いがあったからこそ。入職当時の理想であった、多くの人たちとかかわり、その成長に携わっていきたいという想いも、こういった環境のおかげで形になっています。

しかし大阪YMCAは、こういった社会のためになる活動を外に広める力がまだ弱いと感じています。今後はさらにこのAQUA WATCH ASIAの活動を広く発信し、子どもたちだけでなく、保護者や他の幼稚園、小学校などの教育機関、そして世界中に広めていくことが目標です。そうすることで、大阪YMCA自体の外に発信する力も伸びていくのではと考えています。

想いの  
連鎖。



# 夢が現実になるという実感

公益財団法人大阪YMCA  
ウエルネス事業部 ユーススポーツ事業長 課長

猪口 武志



## 活躍する場所は違っても想いは同じ 予想外の配属先で得た貴重な経験

実を言うと最初は、「自分の好きなサッカーの楽しさを伝える仕事がしたい」というサッカーへの想いだけで大阪YMCAに入職しました。その頃はまだ大きな志はなかったのですが、サッカーにかかるという目標だけはあったのです。それが実際に入職してみると、当時の配属先はサッカーとは全く無関係の海洋型キャンプを主体とする阿南国際海洋センター。「自分はサッカーを指導したくて入職したんだけど…」という納得のいかない気持ちを持ったまま、慣れないキャンプ指導を行っていました。

しかし、そこで多くの子どもたちと触れ合ううちに、あることに気付かされたのです。それは、サッカー指導もキャンプ場での仕事も、同じ目的を持っているということ。その目的とは、人との関わり方を伝え、参加してくれた人に楽しんでもらうこと。サッカーでもキャンプでも、自分の意志で参加する子と、そうでない子がいます。そのそうでない子どもも含めて、最後には「楽しかった! 来て良かった!」と感じてもらう。それはその子自身の成長であり、私の大きな喜びとなっていきました。そしてこの想いは、今でも私が変わらず大切にしていることです。今となって考えてみると、最初にあえてサッカーとは違う場所に配属してもらったのは、私にこういった本来のYMCAのウエルネス教育の目的を気付かせるためだったのではと思っています。

## 外部との共創でプロチームを! 大きな夢も大阪YMCAなら実現できる!!

管理職となった今でも、現場での指導を行っています。大阪YMCAサッカークラスの指導から始まり、小学校での体育授業の支援、女子サッカーチーム「FC大阪CRAVO」の監督、女子サッカー大阪府選抜(中学1年生)のスタッフにも入っています。このうち小学校での指導は、大阪府池田市からの委託を受け、ソフトバンク株式会社(以下ソフトバンク)と連携して行っているICTの取り組み。ソフトバンクのアプリとタブレットを使って、先生方が送ってきた体育の映像に対し、私たちがアドバイスを行うというものです。

また、サッカー指導を「女子」に重点を置いて指導しているのは、データ的に見ても運動していないのは圧倒的に女子が多く、それが後々 30・40代女性の体力低下にもつながっていることから。女性がスポーツに取り組む場所と機会を提供することで、「スポーツを通じて健康的な生活を送る人を育みたい」というYMCAのテーマのひとつを実現するべく活動を続けています。

そして今私が目標としているのは、大阪YMCAがこの女子スポーツでプロチームを持つこと。夢のような話かもしれません、大阪YMCAであれば実現可能な構想だと信じています。メディアの露出度も高いそのプロチームで、30代や40代の女性が活躍している姿を広くアピールすることで、女性が何歳になってもスポーツを楽しむモデルになればいいなと思っています。

この構想は、共同運営して他の企業や団体を巻き込んで実現することも考えています。もっと大阪YMCAを「いい意味で利用したい!」と思ってもらえるように大阪YMCA自身が成長していくべき。ソフトバンクとの連携もそうですが、そういった内での“共創”をさらに実現することが私の理想です。そしてこの考えに至った、「外部とのつながり」ができるようになったのは、大阪YMCAで多様な年代や

立場の方々にお会いするようになったから。価値観や考え方が違うことを前提とし、受け入れができるようになりました。それによって、大手企業の社長や重役の方々ともつながることができ、視野がどんどん広がったのです。さらに大阪YMCAは、思い付きだけでではなく、筋道を立ててストーリーをつくり上げれば、やりたいことにチャレンジさせてもらえる環境です。以前は自分も頑固なところがあり、どちらかというと尖っているタイプでした。もしかすると他の企業や団体だと受け入れてもらえないところがあったかもしれません、幅広い個性を受け止め、こういった成長の場を与えてくれる大阪YMCAだからこそ、今の私があると考えています。

私自身も、まだまだ事業化したい構想がたくさんあります。私自身の想いと大阪YMCAの想いが合致したところで、また新たなチャレンジを続けていきたいと思っています。『人が成長し、夢が叶う場所』それが大阪YMCAなのです。



夢の  
“共創”

